

第2回いわき地方有害鳥獣被害防止対策会議と第2回いわき地方鳥獣害対策研修会を開催

3月6日(金)、県いわき合同庁舎において、「いわき地方有害鳥獣被害防止対策会議」を開催しました。いわき市の単独事業により電気柵等が15地区に設置され、対策が進んでいることが報告されました。また、関係機関の連携を強化し、さらなる鳥獣害の防止について協議を行いました。

また、会議終了後には、農業者、関係機関団体担当者25名が参加し、「いわき地方鳥獣害対策研修会」を開催しました。

はじめに、県農業総合センター 大槻主任研究員が、イノシシの習性を動画で解説を行ったところ、参加者から驚きの声があがりました。

また、鳥獣害を防ぐ環境づくりや、電気柵、捕獲などを総合的に組み合わせ、地域ぐるみで取り組むことの重要性について、参加者は一層理解を深めた様子でした。

次に、北原電牧(株)盛岡営業所 伊藤所長が電気柵の特徴について、有刺鉄線やトタン、金網などの物理柵・心理柵等との比較により解説し、参加者は、電気柵の容易な設置や効果の持続性について理解を深めました。引き続き行った電気柵の組立の実習では、絶縁体の碍子を使うことで、支柱の材質を問わず安価な材料の使用が可能となり、組み立ても簡単になるとの説明があり、参加者たちは「昔のワイヤー線より扱いやすい」「ビニールパイプやイボ竹を支柱に使えば安くできそうだ」などと感想を話し、電気柵設置への意欲を高めていました。



土地利用型作物検討会及び大豆実需者との意見交換会を開催

3月11日(水)、県いわき合同庁舎において、「土地利用型作物検討会及び大豆実需者との意見交換会」を開催しました。

「土地利用型作物検討会」では、市内7大豆

団地等の代表者や担い手の方々15名と、農林事務所、市、JAの関係機関・団体が、いわきの大豆生産振興のために、品質向上や生産安定、湿害回避の技術対策等について、意見交換を行いました。

その後引き続き、「大豆実需者との意見交換会」を開催しました。前段の検討会の参加者に、大豆流通業者、大豆加工業者の方々3名が加わり、実需者の立場から、大豆の品質管理、国内産大豆を使用しての感想等をもとに、生産者と実需者間の意見交換が行われました。各大豆団地等での平成21年産大豆の生産振興が期待されます。



いわき地方水田農業改革推進本部会議を開催

3月17日(火)、県いわき合同庁舎において「いわき地方水田農業改革推進本部会議」を開催しました。

この会議は、東北農政局、県、いわき市、全農、JA等の機関が構成員となっています。

会議では、平成20年度ふくしま水田農業プログラムの実績や活動指標のほか、推進状況についての説明が行われました。

さらに、平成21年度に向けた戦略的取組及び推進計画について検討が行われ、①集落営農を生かした担い手育成、②大豆団地の生産システム構築支援、③水田等有効活用による新規需要米の取組推進策に対して支援を行っていくこととしました。



ふくしま21園芸特産いわき 地方推進本部会議を開催

3月17日(火)、県いわき合同庁舎において「ふくしま21園芸特産いわき地方推進本部会議」を開催しました。

地方推進本部会議では、平成20年度の「ふくしま食・農再生戦略における産地戦略」の推進状況と、「園芸特産産地強化プログラム」の推進状況についての報告の後、いちご、ブロッコリー、アスパラガス、ねぎ、日本なしの主要品目を中心に、活動成果と次年度に向けた取組について検討を行いました。



出席者からは、今後のいわき地方の園芸特産品目の生産振興、産地育成、担い手の育成対策のため、各品目の生産技術対策、販売・流通対策に取り組むことが重要であるとの意見が出されました。

平成20年度いわき地方環境と共生する農業推進会議を開催

3月18日(水)、県いわき合同庁舎において「いわき地方環境と共生する農業推進会議」を開催しました。

この会議は、いわき地方の農畜産業から発生する有機性資源の循環利用を進めるとともに、環境と調和し、持続的に発展する農業を推進することを目的としております。

今回の会議では、県、市、農協等関係団体が出席し、いわき地方における有機・特別栽培や、エコファーマーによる栽培等の普及推進、堆肥の適正な生産流通利用の推進及び農業用使用済プラスチックの適正処理の推進について協議しました。

このうち、堆肥等による土づくりを基本とし、使用する化学肥料、化学農薬を20%以上低減するエコファーマーの認定件数は、前年と比べて12件増加し、いわき市内で511件となったことが報告されました。

また、これまで3年間にわたり化学肥料、化学農薬を使用せず、水稲栽培に取り組む、有機認定された常磐藤原町の滝正嗣氏による事例発

表があり、取り組みの成果や栽培技術等について説明がありました。

このほか、平成21年度の活動方針についても協議を行い、今後も引き続き、「環境と共生する農業」の推進を図っていくことが確認されました。

県産木材利用推進いわき地方 連絡会議を開催

3月23日(月)、県いわき合同庁舎において、「県産木材利用推進いわき地方連絡会議」を開催しました。

当会議は、いわき農林事務所管内における公共建築物及び公共土木事業における県産木材の利用を促進するため、磐城森林管理署、県、いわき市の関係部局を構成員として開催しています。

会議では、ふくしま県産木材利用計画の取り組み状況を説明し、各行政機関における県産木材の利用状況、利用計画について報告・検討を行いました。



会議終了後、勿来町の協同組合いわき材加工センターの視察を行いました。いわき材加工センターの担当者からは、原木から柱ができるまでの工程について説明を受け、木材の利活用について検討を行いました。



(上記写真は「木屑炊きボイラー」)

当センターでは木材乾燥の熱源をこれまでの重油ボイラーに加え、平成20年度には、工場内から発生する木屑等を有効活用した「木屑焚きボイラー」を導入しました。化石燃料を使わず、循環型資源である木材(木屑)を燃料とす

るこのボイラーは、二酸化炭素の排出量が抑制できることから、地球温暖化防止が図られる環境にやさしい施設となっています。

福島県指導農業士会いわき支部 総会が開催

3月24日(火)、ホテルいづみや(湯本)において、「福島県指導農業士会いわき支部総会」が開催されました。

総会では、平成20年度の事業実績、収支決算の報告、次年度の事業計画、収支予算、役員改選について提案が行われ、承認を得ました。

なお、平成21年度の支部役員には、支部長 鯨岡千春氏(四倉)、副支部長 鈴木克巳氏(勿来)、事務局長 高木茂寿氏(渡辺)、監事 強口洋子氏(久之浜)、遠藤美喜子氏(渡辺)が再選されました。

会員から「若い農業者との交流を深めたい」との意見が出され、青年農業者に対して支部行事への参加を呼びかけることとしました。

総会後には、知事感謝状を受け退任する助川正克氏(勿来)、新たに認定を受けた、遠藤重和氏(渡辺)、根本福夫氏(勿来)があいさつを行いました。

今後、支部会員による活力ある農業、農村の実現に向けた取り組みをはじめ、研修受入等を実施し、地域農業の牽引者として、一層の活躍が期待されます。

福島県グリーンフォレスター認定書交付式を実施

3月25日(水)、県いわき合同庁舎内のいわき農林事務所において、「福島県グリーンフォレスター」認定書交付式が行われ、当管内では、新たに3名の方が認定を受けました。

グリーンフォレスターは、森林づくり活動や森林環境教育活動を通して、森林・林業の重要性を伝えるボランティアの指導者で、森林整備に関する技術や安全対策に関する講座を受講した後、レポートによる審査を経て、県が認定するもので、平成15年から認定が開始され、今年の7名を含めて延べ84名の方が認定を受けております。

いわき管内では、今回の3名の方を含め、延べ18名が認定を受けております。



交付式終了後、新たなグリーンフォレスターの方からは、「森林づくり活動や森林環境教育活動への指導を通して、次代を担う子供達に積極的に関わっていききたい」と熱く抱負が語られました。

いわき農林事務所からのお知らせ

◎ 田んぼの学校開校式

期日：平成21年4月22日(水)

時間：午前10時15分より

場所：夏井小学校

開校式以降、一年を通じて活動を行いますので、皆様の御協力をお願いします。

◎ 山火事防止パレード(第2回)

期日：平成21年4月23日(木)

時間：午前9時30分より

◎ ふるさと誘致と連携した地域産品づくり事業

(大豆の播種から味噌・豆腐づくりまでを予定)

期日：播種 平成21年 6月上旬

収穫 平成21年11月頃

加工 平成22年 1月頃

場所：いわき市田人町貝泊地内
(※参加者募集等については、別途お知らせします。)

皆様のご理解、御協力をお願いします。

◎ 皆様からのご意見・情報をお待ちしております。

福島県いわき農林事務所 企画部 地域農林企画課

〒970-8026 いわき市平字梅本15番地 Tel (0246)24-6197 Fax (0246)24-6196

URL <http://www.pref.fukushima.jp/norin-iwaki/>

E-Mail iwaki.nourin@pref.fukushima.jp



iwaki.nourin@pref.fukushima.jp